

11/27
福

医療機関4割超 賞与を引き下げ

病院や診療所などで働く約十七万人が加入する日本医療労働組合連合会（医労連）は、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、医療機関の四割超が看護師らの年末賞与を昨冬より引き下げたとする調査結果を公表した。

医労連によると、今夏の賞与を引き下げていた医療機関は三割超で、医労連の森田進書記長は「状況は明らかに悪化している」と述べた。新型コロナウイルスへの感染を恐れた患者が通院や入院

を敬遠する状況が続いていることが大きな理由という。

医労連は十一月、各医療機関の労働組合に調査への協力を依頼。二十五日までに二百九十八組合から回答を得た。

それによると、全体の支給月数の平均は昨冬比マイナスイナス〇・二四九カ月で、金額ベースでは平均四万三千三百十五円の減額だった。

昨冬の支給実績との比較が可能な二百八十九組合で見ると、百二十八組合（44・3％）で支給月数が下がっており、三十万円超のマイナスイナスとなるところもあった。